

イエスはまなり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 159号

「主よ、祈ることを教えてください」

(ルカによる福音書 11章1節)

鍋倉 勲



人生途上にあって人は誰でも信仰の有無に関係なく幾つかの評価や危機経験に直面します。牧師夫婦も例外ではありません。私は十数年間ホスピス運動に深い関心を寄せ、臨床牧会研修会にも参与してきました。しかし、がん患者が闘病生活で直面する内的、外的の様々な危機、そこから生じる様々な心の悩み、不安、葛藤など真の意味で深くは知りませんでした。私共夫婦は殆ど同じ頃、がんを病みました。妻の夏海は2004年に胃がんの手術を受け、術後の経過もよく癒されたと思って元気に過ごしていました。ところが2006年丁度クリスマス直前に私が大腸がんを病み手術となり、夏海は私のことばかり気づかっておりました。幸いにも術後の経過も良好で翌年2月14日に退官教授に課せられる最終講義も勤め果たした時は、神の恵みと教会内外、九州アシュラムの禱友の方々の祈りの賜物と感謝しました。私共夫婦はすっかり癒されたと思って同年6月からアメリカ・ケンタッキー州にある日本人教会からの話があり、差し当たり1年間の契約でボランティア宣教師として渡米する予定でした。7月下旬にやっと面倒なビザの手続きも終えて9月9日出発も決まり、航空券も入手して二人でその日を待っていました。ところが、夏海が体の不調を訴え、渡米直前に精密検査を受けることになりました。検査の結果、外国旅行どころではないという診断で青天の霹靂、大変なショックでした。9月9日緊急入院・手術となり、心の準備もなく、病気が進んでいることを伏せながらの生活を強いられました。あっという間に身体は衰弱し、再発のショックで打ちのめされる思いでした。福音書に登場する、夜半に海上で大嵐に遭遇した弟子同様、不安と恐れに落ち込んでしまいました。祈ることの必要も知っていたつもりでした。しかし、どう祈ったら良いのか、分からない面もありました。恐らく弟子たちも日頃、イエスの宣教活動の根底には祈りがあることをイエスの祈りの生活から学んで知っていたことでしょう。しかし、イエスの十字架の出来事に直面し、最後まで祈り、見守ったのは主を愛する婦人たちでした。

「主よ、祈ることを教えてください…」、主にあっという間のちある限り、私には主に信頼し、主を仰ぎつつ、かの婦人たちに学び続ける他ないのです。

(日本バプテスト連盟 刈田キリスト教会牧師)

霊 想

「決して見捨てない神」

イザヤ書41章8-16節

新宿西教会

副牧師 杉本 和生



小学四年にいじめの経験を通して主イエスの救いのめぐみを受けた私は、高校を卒業した後、日本ホーリネス教団の東京聖書学院に入学しました。私の姉が「あなたを見てみると神さまが生きていることがわかる」とよく言います。なぜなら、何も取り柄のない私が、今、牧師をしていること事態が奇蹟だということです。まさにそのとおりでして、私は神学校で他の神学生との差を知るようになりました。学力もなければ、ピアノが弾けるわけでもなく、日ごとに自信を失い落ち込んでいく中、最初の年の秋頃に家から電話がありました。雨の日に姉が、車に跳ねられ、両肩を骨折。そこへ針金を入れる手術をするということです。しかもその数日後、今度は兄が車を運転中に当て逃げされて、入院したという

のです。ショックを受けて祈ってましたが、自分自身もどんどん体が弱り、咳も続くようになりました。体を病院で調べてもらうと、レントゲンの結果「末期の結核の疑いがあります。」と言われ、更に様々な検査をすることになりました。同じ頃今度は「母が癌らしい祈って」と電話がありました。近所の創価学会の人が「あの家は娘が牧師になる学校に行ったから呪われた。」と言っている。と聞き、私自身もダウンして、食欲もなくなり寝ているだけになりました。祈っても祈れず、次第に神学校の校長から「もう退学するように」といつ言われるかとびくびくするようになりました。自分ではどうすることもできなくなり、「ただ主のもとへ」と聖書とタオルを持って祈祷室へ行きました。祈祷室に入ると今まで我慢していた思いが溢れ「神さま」と一言言ってから、三〇四時間ほどただただ泣きました。涙が乾いたころ、ふと聖書を開いたら、それはイザヤ書41章でした。その中の九・十節が私の目に飛び込んできました。「あなたは、わたしの僕。わたしはあなたを選び、決して見捨てない。恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。」そして、「かんちゃん、わたしはあなたを見捨てない。」「かんちゃん。わたしは、あなたを選んで捨てない。」

と神さまの御声を聴きました。(かかんちゃん・愛称)涙が溢れ「わたしは、もう大丈夫。たとえ校長先生に神学校を辞めなさいといわれても、誰に捨てられても、神さまが捨てないとおっしゃっている。」との確信が与えられ、平安を得ました。その後、私の結核は病院が同じ名前の人のレントゲンを間違えた誤診とわかりました。姉も手術が成功し病室で伝道し、同室の人が導かれ、それが縁で新しい仕事を与えられたということ、兄は入院中出会った看護師とやがて結婚しました。母の癌は、命にかかわるものでないとわかりました。近所の人とは、あんなに大変なのにあの家族は笑顔だとかえって証詞になったそうです。わたしも、神学校を卒業して二十年以上になりましたが、牧師として、今も奉仕させていただいています。

九節の「僕」はイスラエルが神の僕であるのなら、主が生きておられそのもとに保護されていることを知っており、その方に信頼することができるといふことなのです。神は、「あなたを選んで、決して見捨てない」と言われました。「恐れるな。わたしはあなたと共にいる。たじろくな、私はあなたの神。救いの右の手で支える。虫けらのようなヤコブよ。」バビロンに捕らわれていた人々は七十年奴隷のような望みもない状態でした。私たちも自分を見ると神の目から見たらまさしく、あのゴキブリのように踏みつぶされてもおかしくないほどその心は汚れているのに、「恐れるな。」とわたしたちを贖う方、聖なる神は「助ける」と言うのです。「救いの右の手で、支える」と言うのです。では、どのように贖って、救ってくださったのでしょうか。まさしく神の御イエス・キリストを私たち、この虫に等しい罪深い私たちの罪の代価として十字架に磔けにしたのです。この私たちを助けるために。なんとという自己犠牲の愛でしょうか。なんとという恵みなのでしょうか。そして神は私たちを助けるばかりか、「新しい打穀機とする」というのです。収穫を沢山する者とするのです。人生の山を打ち砕き、丘でさえ平にすると言うのです。まさに奇蹟です。それが主によって喜び、神による誇りです。神さまは今も生きて私たちに語っておられます。「あなたは、わたしの僕、わたしはあなたを選び、決して見捨てない。恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。」神さまは、あなたを決して捨てません。あなたのためにイエスさまを与えて下さった方です。み言葉を信じ受け止め、神さまが豊に働いてくださる主のみわざを仰ぎたいと思います。

証 立

祈りは力

東京新生教会

吉田 清江

アシュラムの友のお祈りを感謝して、主の聖名を讚美しお証しをさせて頂きます。

主はあなたのために、御使いに命じてあなたの道のどこにおいても守らせてくださる。(詩編91:11)

昨年9月8日、入院にあたり、祈りに祈って与えられたこの言葉に、しがみついた。全身麻酔が施されて始まりました。全身麻酔が施されて、有無を云わせず内臓の一部が取り去られたのは、思いもよらない痛の為でした。併しこの時以前から既に始まっていたのは教会の祈りでした。

気がついた時は、カーテンに囲まれた病室の中でした。優秀な医師によってなされた手術は年齢の限界をはるかに越えた高齢の私でありましたけれど無事に終える事が出来経過良好という事で、祈りつつ控えておりました娘も一応安心して帰宅致しました。病室で一人感謝の祈りを捧げる私に再び迫ってきたのは、教会の祈りでした。後から後から潮の如くに心いっぱい寄せてくるのです。麻酔が覚めきらない状態の中で、これはどうした事かと戸惑いを覚えながらもさらに祈りの中に没

入していきました。不安が消えて平安と喜びが全身を覆い尽くしました。病室は文字通り「わたしの家は祈りの家と呼ばれるべきである。」(マタイ21:13)でした。この時、私には「神共に在す」祈りの応援があるのだ、という力強い幸いを心ゆくまで味わい知らされたのです。

数日後、教会の皆さんからの祈りの寄せ書きによるみ言葉入りの色の紙の輪やお手紙は大きな慰めとなり、更に病敵と闘う力が与えられました。祈りは力である。とはこの事なのだ！熱いものが全身を駆け巡って聖名を崇めました。又、主は他にも喜びを下さいました。医師の回診の時に、もう一人の医師が近づいてこれ「私もクリスチャンですよ」と親しく云って下さったのです。飛び上がりた程に驚いた私は思わずその医師と固い握手をしていました。凄く感激でした。病院中が輝いてみえました。入院時に提出していた私の調書にクリスチャンであることを明記してあったのを見て下さったのでしょうか。又、看護婦さんも良い方ばかりでしたので、いつも平安でした。けれど、何にも増して更に力になったのはいつも手元にある。日毎の糧によって一日が始まる事でした。又、祈りと共に教会からの「讚美」と「メッセージ」のテープやお手紙等です。他にも愛兄弟方のご芳

による車の送り迎えやお見舞いに来て下さったのお祈り、加えて家族の祈りの協力等々、その度にみ言の味わい、主の恵みを心ゆく迄に知らされました。でも50日間の中には失敗する事もあります。五、六時間もかかる点滴の注射の最中は、静かに目を閉じて祈る事にしていました。油断をしないで、お祈りがおいねりになつてしまふ事が何回もありました。この様な中で癒されていく恵みと不思議に思います。否応なしに祈らされる境遇のどまん中に置かれた事は、今思うと普段さぼっている私を見兼ねた主が憐れんで下さった最善の方法であつたのでしょうか。勝手な思いかも知れませんが、生活の隅々まで祈りの中に支配されている自分を見出す事が少しでも出来た様に思えるという事は恵み以外にありません。

限りない感謝と共に聖名を崇めます。
ハレルヤ

第41回

城北アシュラム報告

川村 秀夫

第41回城北アシュラムは例年通り2月11日(祝日)新宿西教会(当番教会)が御用にあたりました。ア



シユラム参加教会は8教会、41名の参加でありました。

開心の時は池の上キリスト教会員飯島延浩兄が担当しオリエンテーションを兼ねながら私たちの心を開く働きをして頂きました。聖書に聴くときは聖書の文字を追うだけではなく聖書の働きを求めて祈る時、自分自身に聴こえてくる聖書の言葉であります。アシュラムでは自分自身が求めているニードを大切にします。今自分自身は何が一番必要なことを深く掘り下げ、考えて行きます。ニードをイエス様の前で出すことで周囲の人に祈ってもらうことが出来るのです。と話されました。静聴の時は新宿西教会牧師杉本

泉師が担当され、ヨハネ14章を静聴の箇所として取り上げました。この聖書箇所を静まって心をこめて読み、御言葉を聖霊様と向き合いながら聴き、その中から恵みを分かち合いました。多くの感銘する聖句が多数の方によって取り上げられました。

福音の時は東京新生教会牧師横山義孝師が担当され、詩篇46篇をとりあげられました。南ユダがヒゼキヤの時代アッシリヤに攻められ一大国難の時がありました。南ユダの王は神様への真の信頼、全ての明け渡しをしたことによって神が示された絶大の力によって解決できたのでした。アシラムの神髄はまさにこの「アブソリュウト サレンダー」にあるとスタンレー・ジョウンスはいつています。スタンレーはこの明け渡しを経験したのであります。

インマヌエルの神は真に従う者には力と愛と喜びの源泉となつて、勝利の前進の結実へと私たちを導いてくださいます。あなたの重荷を主に委ねなさい。主よすべての真実の解決を与えて頂くようではありませんかと語られました。

2回の細胞の時間が与えられましたが、開心で心の準備が与えられ、静聴と福音の時を通してそれぞれが自分の持つてきたニードに答えが与えられたのではないかと思います。アシラム最後の充滿の時は木

部安来師に担当して頂きました。輪を作り一日の恵みを感謝し讚美し祈りをもつて会を閉じることが出来ました。

第17回 東京新生教会 アシラム報告

横山 基生

杉本和生師（日本基督教団新宿西教会副牧師）を助言者として、第17回の当教会のアシラムを恵みの内に持つことが出来ました。創立22年目を迎えるようとしている私達の教会は、アシラムを教会形成に欠かせない大切な霊修の時と捉えて来ました。土曜日の午後7時から翌日曜日の午後3時迄参加者それぞれが霊的な呼吸を豊かにする機会とすることができました。

一人の開心の言葉が、次の人の開心へと導くことを知ります。引き続き、グループに分かれての開心の時間。ただ、課題を分かち合い祈るだけで、充分とするアシラムの姿勢に、人ではなく主がまさに働かれる事を信じ、その解決をただ待つ靈性を教えられます。

アシラムでの連鎖祈禱にも、教会員が進んで名前を書き入れ土曜夜10時から翌朝7時までの期間、心を合わせる事が出来ました。主の恵みによって、よく祈る教会として

の靈性を培うことが出来てきていることは大きな感謝です。今回、教会学校の子ども達にも、この連鎖祈禱の意味を知らせ、真夜中に祈りの担当をする人がその時間に起き上がる事が出来るように祈ってもらおうという導きを与えられ、実際その子ども達が「覚えて祈った」という報告を聞けたとき、とても感謝でした。アシラムの靈性を子ども達にも、伝えることができたことは感謝な新しい進展でした。

アシラムの挨拶、三本指を立てて「イエスは主である」と互いに告白し合うことの深みを、今回のアシラムの後、ローマ書10章9節からの礼拝説教を準備しているときに、教えられました。



各地区アシラム予告

●第29回横浜岡村アシラム

とき 10年7月17日(土) 18(日)
ところ 日本基督教団横浜岡村教会

助言者 伊藤 節師 (ホーリネス 教団牧師)

●第48回関東アシラム

とき 10年9月13日(月) 15日(水)
ところ 山崎製パン箱根山荘
助言者 本多英一郎師

(バプ連港南めぐみキリスト教会牧師)

●第44回関西アシラム

とき 10年10月10日(日) 11日(月)
ところ 御影「母の家ベテル」
助言者 唐渡 弘師

(日本イエスキリスト 高松田村町教会牧師)



各地区アシラムの上に祝福を祈りつつ (V)

〒一八一〇〇一一 三鷹市井口3-15-6
池の上キリスト教会内
日本クリスチャン・アシラム連盟
振替口座 東京〇一〇〇一―四五五八